



がんサロン「よかところネット」レター

今回は、「緩和ケア」について、当センター緩和ケア認定看護師西村直子さんに講話を行ってまいりました。講話前「緩和ケアと聞くと、もう最期なんだと思う」や「死が近い」等と言うイメージがあると言われていた参加者の方々でしたが、「緩和ケア」について正しい知識を持つことで、これまでのマイナス的なイメージが変わり「緩和ケアは必要なもの」「緩和ケアを受けながら生活を送る事が大事」等の声が聞かれていました。

まだまだ誤解が多く、正しく周知されてない「緩和ケア」の意味。がんと告知を受けて始まる緩和ケア、つらい思いを聞いてもらうのも緩和ケア、痛み止めを使い生活するのも緩和ケアなのです。

がん治療と並行し受ける緩和ケアは、緩和ケアチームが担当し主治医や看護師等と協力し緩和ケアを提供しています。

★ がん治療と緩和ケアの関係

(A:これまでの考え方 B:新しい考え方)



A



がんに対する治療

緩和ケア

がんの治療が終了するまで苦痛緩和は制限し、治療終了後に緩和ケアを行う

B



がんに対する治療と並行して緩和ケアを行い、状況に合わせて割合を変えていく

緩和ケアチームに関する 様々な職種

医師

看護師

薬剤師

臨床心理士

栄養士

社会福祉士

リハビリテーション

* 緩和ケアはどこでも受けられます

- ・緩和ケア外来
- ・緩和ケア病棟
- ・在宅緩和ケア



次回がんサロン

平成29年10月6日 金曜日

14:00~15:30

第2回「隣臓がん長生きの会」

広報担当: 外来看護師萩平